

## 神奈川県助産師会 最高齢の現役助産師！をたずねて

### 横浜市 大塚 ヨシ 先生

1921（大正10）年1月1日生まれ。御年92歳。

助産師歴74年。まだまだ現役で仕事を精力的にしています。先生にずっと乳房ケアを受けてきたお母様の話では、「先生のお宅のカレンダーに予約が入っていない日は、たった1日、大晦日だけだった」とか。

戦時中、女性たちは夫が戦死して帰ってこない事を覚悟し、女手一つで子供を育てるために皆、何かしら仕事に就いたそうで、助産師の仕事を選んだきっかけもそういう理由だったそうです。

戦時中、赤ちゃんを連れて小児科に行ったのですが、何の治療もできないまま亡くなってしまい、せめてお経をあげてもらおうとお坊さんを探しましたが、お坊さんも戦争にとられていて不在。隣町のお寺にお坊さんがいると聞きつけて、亡くなった赤ちゃんを抱きかかえ「撃たれてもいい・・・」と敵の戦闘機から浴びせられる爆弾の嵐の中、隠れるところのない田んぼのあぜ道をお寺目指して、必死に走った話などエピソードも様々。

割烹着を着て乳房ケアをする姿は、神々しくもあり、助産師として憧れでもあります。大塚先生の乳房ケアを受けたお母様方は、乳房を癒し、心も癒してもらい、子育てのヒントや楽しさ母乳を与えられる幸福感を感じているのだと思います。

先生、これからもお元気でご活躍ください。（記・朝場）



## ～理事会より～ 定款改定は無効

平成25年度通常総会第5号議案において、定款改定の審議を致しましたが、定款改正は第7章42条により「総社員の議決権の3分の2以上の決議」が必要であり、3分の2以上の総社員の参加がなかったため、成立しておりません。総会後内閣府への提出書類作成時に気づき、会員の皆様には多大なるご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。よって平成26年度の通常総会にて再審議となりますことをお知らせ致します。（総務理事 岩田美也子）

### 会員募集中

随時、入会を受け付けています。  
詳しくはHP、事務局まで。

### ご寄付のお願い

神奈川県助産師会の活動にご賛同下さいます皆さまからの  
温かいご支援をお願いします。

ご連絡先 事務局

★平成26年度の会費引き落とし予定は2月20日頃です。  
変更がある場合は1月15日までにお願いいたします。（事務局より）

### ◇編集後記◇

企画から約半年かけてのニュースレターの出来上がり。試行錯誤しながらですが、形になっていくのは本当に嬉しいです。ご意見などお寄せ頂けたらと思います。（柳井）

発行：公益社団法人神奈川県助産師会  
編集：広報委員会  
〒231-0037 横浜市中区富士見町3-1  
神奈川県総合医療会館6階  
☎045-262-4201 Fax045-348-9020  
メール：office@kanagawa-josanshi.com



## 公益社団法人 神奈川県助産師会

## ニュースレター 2013年12月 VOL.2

### 公益取得1年を経過して

公益社団法人神奈川県助産師会 会長 仲 かよ

昨年12月1日に一般社団法人から公益社団法人へと移行致しました。

行政書士の指導により一般社団法人との違いを勉強し、皆様のご意見も取り入れ、より良い会にする努力をして参りました。しかし、やってみなければ解らないことも沢山あり、この1年は赤ちゃんのようによちよち歩き状態で進んで来ました。

振り返ってみると公益取得で一番良かったことは、事務員募集時、公益という社会的信用からか、沢山の方から応募を頂き、田中真弓さんという優秀な人材を確保し2人体制にすることができたことです。ロゴマークの公募に多数応募してくださったのもその効果だったと思います。

デザインを学ぶ職業訓練生の方のロゴを採用し、シンボルとして使わせて頂いております。逆に大変だと感じたことは、公益事業の推進ではなかったかと思っています。

会員の皆様には多数の研修企画を喜んでいただけていると思っていますが、一般の方向けの事業も今後の助産師会の果たす大きな役割になってくると思います。これらの事業を推進するために関係団体や業者の方に寄付をお願いしましたが、今後は行政への働きかけも重要と思っています。

会員皆様のご協力も是非是非お願い致します。

↑ 横浜赤レンガ倉庫

### 記念講演「命・愛・はぐくむ。」を開催して

副会長 高橋 なぎさ

7月6日土曜日、めまいがしそうなくらいにギラギラと太陽の眩しい猛暑の午後。吉野町市民プラザにて公益社団法人認定記念イベントを開催いたしました。手作りのチラシ、口コミでのお誘い、そして駅近とはいいながらも中心部から離れた場所にある会場・・・と、こじんまりとしたアットホームなイベントとなりました。内容はスライドショーとともにお産にまつわるエピソードの紹介、俳優の田口浩正さんのトークショー、歌手の森之美姫さんのコンサートと盛りだくさん。ステージと来場者とがとても近い位置にあり、十分なライブ感を味わうことができました。



## 助産所部会

助産所部会研修会（Ⅰ）（Ⅱ）

～医療者と共通言語化、共通理解を図ろう～

助産所部会長 岡本 登美子

助産所部会研修会は年2回開催。転院、搬送の際、共通言語化をもって共通理解を図ることに焦点を充てました。

1) 9月「常位胎盤早期剥離の予兆と判断」「妊婦の冷えと改善」早剥の症状では何気ない腰痛、陣痛ではない規則的な下腹痛、variabilityの減少、消失、性器出血、遷延性高度徐脈の出現などおかしい？と判断したら即！搬送を決定する。横浜市大附属市民総合医療センター助教、倉澤健太郎先生より助言がありました。

2) 11月「医療事故は何故起こるのか」「CTGの判読」施設勤務の助産師の参加者が多く、日常避けては通れない問題です。医療事故の原因は、上司に逆らえない、上司が意見を聞く耳を持っていないなどちょっとした間違いや思い込みが影響しているそうです。モニター所見は毎年微妙に変更しています。胎児心拍数波形のレベル1、2は搬送不要、3は分娩の進行状況によっては搬送を考慮する、4は搬送が必要、5は搬送が絶対に必要ですがすでに遅い！モニターを判読することが助産師判断の必須です。助産所からのモニターを12例提供して関東労災病院産科部長香川先生に判読して頂き、先生の分かりやすい説明や優しい口調で終始、場が和んでいました。

平成24年神奈川県内の助産所が取り扱う分娩数は、1.98%（全国0.98%）助産所数も29施設と減少。助産所を取り巻く環境は、助産所存続の危機に直面しています。助産所は一人一人がこの現実を真摯に受け止め、最新情報を習得し知識を深め、質の向上と安全なお産を目指して社会に助産所をアピールしていただきたいと思います。



## 保健指導部会

「保健指導部会の活動と今後」

保健指導部会長 岡田 啓子

保健指導部会では、毎月第2水曜日に委員会を開催しています。

平成25年度の、主な活動内容は、1、母子保健指導者のスキルアップのための研修会開催。素晴らしい講師の先生方をお招きして、最新の情報提供に努めています。毎回大人数で定員いっぱいになる研修会です。2、ヒヤリハット事例報告の分析検討を実施し、安全確保の推進。3、部会員の前年度の活動状況調査をもとに、ネットワーク作りの構築。保健指導部会会員の有志（現在31名）におけるメーリングの活用が間もなく開始します。

今後の課題としては、開業届出の推進、保健指導員賠償責任保険制度加入の推進、保健指導開業助産所の安全管理基準（指針）の徹底などなど、発展途上の部会ではありますが、個々の部会員が、地域で助産師性を発揮できるよう頑張っていきます。皆様のご協力をお願いいたします。

## 会立助産院報告

「5年目を迎えて」

とわ助産院 院長 山本 年映

助産師会立助産院が始まり5年目に入りました。1年目は20件でしたが、今年度の分娩件数は、目標の50件が11月のこの時期に達成できました。公益社団への移行とともに、とわ助産院のあり方も変わってきました。横浜市産後ケア事業にも参入し、さらなる地域の母子支援を行い地域貢献に役立つ場所となるよう努力していきたいと思っています。10月8日の「とわの日」のイベントには、50組以上の親子が参加してくださいました。これからも毎年開催していけたらいいなと思っています。



## 教務部会

「より良い助産所実習に向けて」

教務部会長 岡田 律子

神奈川県助産院は全国（北海道～九州）の大学院・大学・専門学校から助産師・看護師学生（年間延べ約4,000人）の実習を受け入れています。また、養成機関により、実習期間も数日から2か月近く、宿泊しながらなど実習形態も様々です。そこで、学校の担当者と助産院から出席してもらい、教務部会を年2回開催しています。ここ数年の取り組みで実習をしているかなど可視化できるようになり実習調整がスムーズになりました。24年度、助産院で実習した学生の卒後調査では神奈川県内に55名助産師として、就職。助産師を目指して11名が進学という結果でした。

今後とも「助産院で実習して良かった」と実感してもらえるように学校と助産院の連携を取り、実習環境の調整等に取り組んでいきたいと思っています。



## 勤務部会

「勤務部会の活動」

勤務部会会長 弘末 睦子

勤務部会では、8月に保健指導に役立つために「元気なカラダをつくる食事」と題して、実際の妊婦さんの食事について基本的な食生活の考え方や工夫を学ぶ研修会と12月には分娩期のケアについての研修会を開催しました。さらに、昨年に調査した「勤務助産師の神奈川県助産師会勤務部会活動に対する認識と期待」をまとめ、ホームページにアップしました。分娩取り扱い施設44/135施設の結果は、入会は僅かでしたが、研修会への参加は90%以上ありました。そして、院内助産は僅かですが、多くの施設が助産所外来や母乳育児支援（母乳外来等）を行っていることが分かりました。

勤務助産師（病院や診療所に勤める助産師）の役割は、正常妊娠褥婦・新生児から、医療介入が必要なケースまで多岐に渡ります。皆様のニーズに答えられるよう、多くの情報の発信をして、有意義なものにしたいと思います。



《特集》 からだ作りをテーマにお伝えしていきます

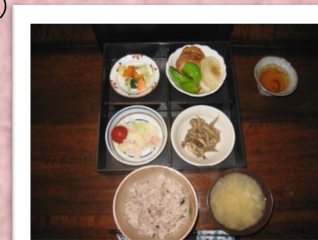
## 妊婦さんの体作り～Part 2～

かもめ助産院 院長 鈴木 令佳

横須賀市にあるかもめ助産院の食事をご紹介します。

当院では妊婦さんの体調向上、体作り＝安産につながることをモットーに初診時から以下6項目を予約カードに印刷し、「安産の秘訣」として奨めています。

- ①水分を温かいもので1日1.5ℓ以上とる
- ②必ずお風呂に入る（湯船につかる）
- ③運動をする（お散歩などでもOK）
- ④鍼灸やリラクゼーションなどを活用し、体調を整える
- ⑤食事はバランス良くしっかりとる
- ⑥体重増加は必要



母親学級でも一度モデル的な食事を試食していただき、初産・経産問わず、月に一度は鍼灸、リフレクソロジー、アロママッサージ、イトオテルミーの利用をすすめます。現在の妊婦さんは忙しく、心と体の休息も体験していただく必要性を実感してもらう必要があるからです。妊娠を機にベーシックな日常生活を学んで頂いていますが、今の妊婦さんにはこのとり組みが必要だと考えて指導・健診をしています。



イトオテルミーの施術中